

¡Hola, amigos!

第060号

(RとNの Cádiz からの手紙)

皆さんこんにちは。これはHPというより、日本の友人・知人の皆さんに私達の近況をお知らせする手紙のようなものです。そのつもりでお読みください。

更新は、なるべく毎週、日本時間の金曜朝05:00から07:00時に実施する予定です。臨時休刊の場合は前もってお知らせするつもりです。

なお、バック・ナンバーは最近三号分のみとし、それ以前のもの順次削除します。

では、今週号へどうぞ。

2005年01月27日 カアディスにてR y N

☆今週号のトップヘジャンプ



今週号 NO. 060 (2005年・第05週) 01月27日 更新

「三連カレンダー」の巻

公現祭のパレードも終り、いま街の関心は2月3日からのカルナバルに向いているようです。2～3日前から全国的な大寒波ですが、街には春の気配が近寄っています。12月初めにチョビッと降ったきり、もう殆ど2ヶ月近く快晴が続いています。私達にはありがたい晴天続きですが、何事も「過ぎたるは・・・」の言葉どおり、テレビニュースではカラカラに乾いた畑の土を写して、農家にとって深刻な水不足を伝えています。北は大雪でアチコチ交通遮断もあるらしく、どうやら野菜の値上がりは必至という状況です。限りなくベジタリアンの私達にとってこれはとても心配。

友人が暮れのどん詰まりに出してくれたという航空小包が21日かかってようやく届きました。郵袋に入ったまま。どこかの倉庫で正月休みで寝てたんですね。航空便が21日もかかるとは尋常ではありませんが、それでも最終的には届いたという点が、しょっちゅう行方不明になってしまっていた前のベナルマデナの時との大きな違いです。最低限ぎりぎりの信頼感を持ちうるかな、というところ。

ところで、皆さんはどんなカレンダーをお使いでしょうか？ オトトシの暮にもカレンダーの話をクリックしたと思いますが、去年も街に次のカレンダー(alendario=カレンダー)が出回りだした11月頃からずっと気にいるものを探していました。めぼしい文房具店、デパートや大手スーパーの文具売り場を片っ端から探しましたがどうしても望みのものが見つかりません。売っているのは写真や絵のついた半装飾的なものばかり。ほしいと思って探していたのは字だけのもので前月と次月がはっきり見えるもの、それと12ヶ月が一目で見れる一枚もの、の二つです。

しかたなく正月明けに来る予定のnにイギリスから買ってきて貰うことにしました。

Rが現役の頃、年末にドイツやオランダの港へ入るとどこでも当たり前のように代理店やシップ・チャンドラーがくれたのは次のようなものでした。

まず、最上段には各企業の宣伝が印刷された厚紙がありこれは一枚きりで一年中ソコに定着。二段目に先月、三段目に当月、最下段に次月が同じサイズで並んでいます。先月・当月・次月の各段は夫々が12枚綴りで、夫々が12ヶ月のカレンダーになっています。先月の綴りは前年の12月から始まって当年の11月迄の12枚、当月の綴りは当然1月から12月迄の12枚、次月の綴りは当年2月から始まって来年1月迄の12枚です。合計で36枚のカレンダーが三段一組になっているわけ。

日本ではあまりナジミのないものですね。でもドイツ・オランダ・ベルギーなどで会社の宣伝用に作られるものはこの形式が当たり前のようなんです。だから、欧州ではそういうものがごくフツウに手に入るものと思い込んでいました。少なくとも船ではそういうものをゴク当たり前にアチコチで貰って便利に使っていました。

また、スペインの港でよく貰ったのは、第58号で私達のPCデスクの前の壁に貼ってあったのと同じもの。あれは去年正月があけてから文具店でもらったものでした。それは一番上に、やはり厚紙で会社の宣伝が印刷されていて一年間不変です。その下に12ヶ月12枚綴りのカレンダー、各月の上のほうに前月と次月がやや小さく入っています。その他、際立った特長は満月・新月さらに上弦の半月と下弦の半月も表示されている事。色々な宗教行事が、例えば、特定の満月の後の最初の日曜日、というような決め方をされるので月の満ち欠けを知るのが不可欠だからでしょう。

これはイギリスのカレンダーでも出ているものが多いようです。

もう一つの特徴は365日の全てに聖人の名前が付けられている事です。例えば日本でもナジミのあるセント・バレンタインズ・デーなどがいい例でしょう。

西和辞典でsanto(聖人)の項を引くと次のような例文が出ています。Hoy es mi santo(今日は私の霊名の祝日です)。或る聖人と同じ洗礼名を持つ人はその聖人の日には祝い事をするのだそうです。多分誕生日もダブっていることが多いんでしょうね。

また、スペインでは11月1日はDía de Todos los Santos(諸聖人の日)といって、

特定の聖人だけの日ではなく全ての聖人の日で、また国民祝日にもなっています。
詳しいことは知りませんが、同じカトリックの国でも何日がどの聖人の日かは夫々の
国によって少しずつ違うものらしいです。

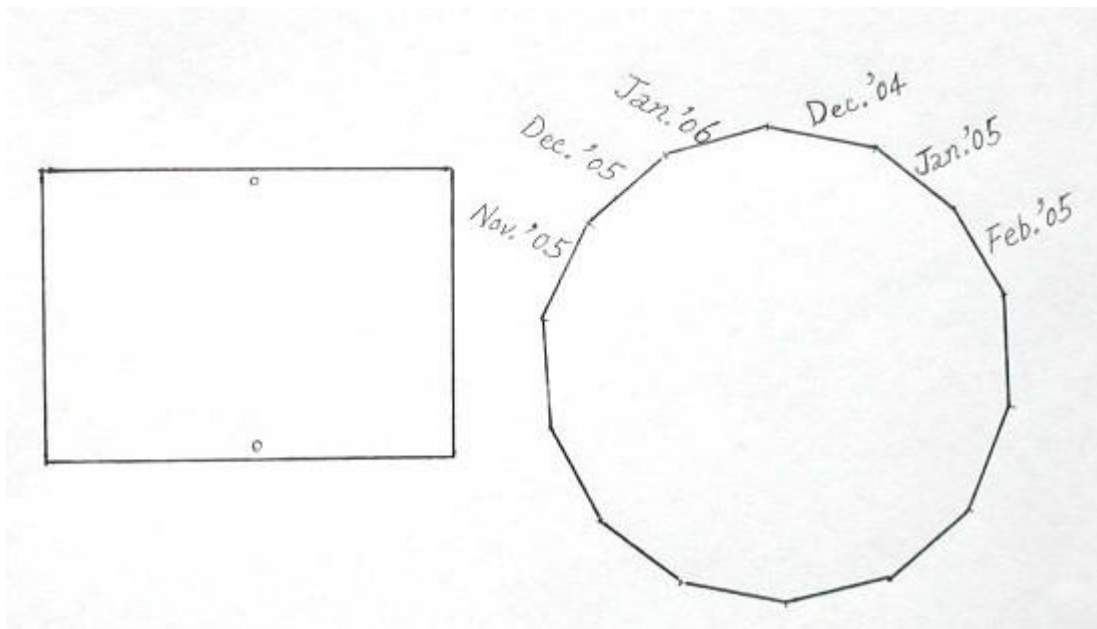
さて、nが買ってきてくれたものは12枚つづりで先月と次月分が小さく印刷された
物でした。イギリスでもドイツ・オランダ式の物は見つからなかったそうです。
この形式でも実用上問題はないのですが大きなアナがありました。国民祝日が違うこ
とを見逃していました。土日はズレようがありませんが、祝日は国ごとに違うのが当
然ですね。ウカツでした。

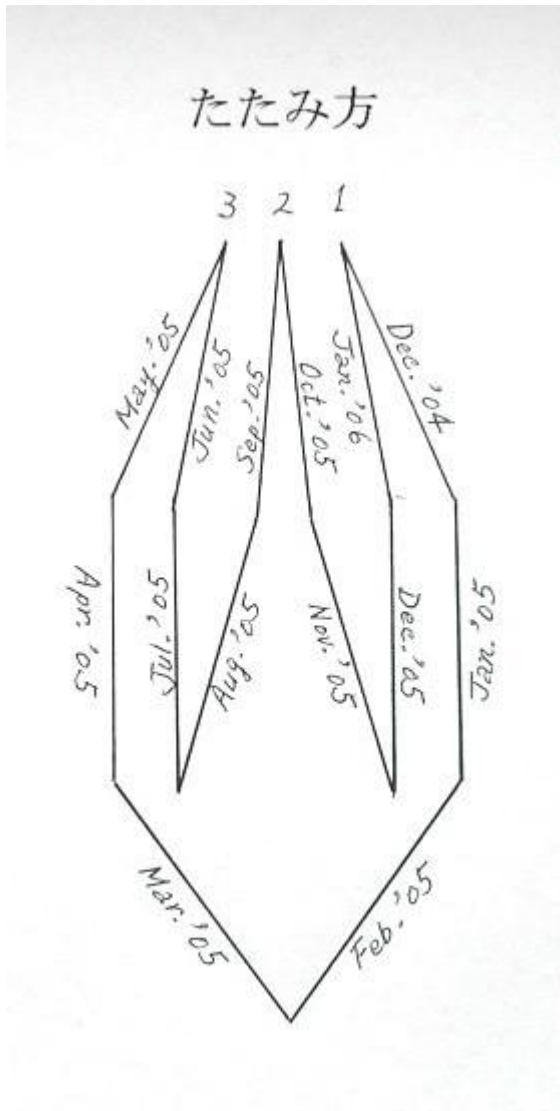
例えばカァデイス市が特に力を入れているイベントはカルナバルで今年は2月3日か
ら13日ですが、これも年によって期間にズレがあります。こういう事はイギリスの
カレンダーでは知りようがありません。

それに先月と次月の印刷がいかにも小さくて、PCの目の前の壁にぶら下げておいて
もイチイチ天眼鏡を手に立ち上がらなくてはナラン始末。これじゃどうにも不便でな
りません。そこで一念発起、自分流のカレンダーリオの自作です。

マズ、考えたのはドイツ・オランダ式。ところがこれでは12ヶ月を三組綴じなけれ
ばなりません、紙はともかく、プリンター・インクが勿体無い。何しろキャノン純正
のカラー・インクはここではトテモ高いですからね。

そこで名案ひとつ。次の図の通りです。





まず、左上、A4判コピー用紙を横置きにして各月のカレンダーを印刷します。これはExcelを使って簡単に出来ますね。そして上辺と下辺の中央にパンチ穴をあけておきます。これを14枚、即ち前年12月から来年1月分まで印刷します。

ここからが思案のしどころ。

この14枚を右上の図のように一つのワッカになるように印刷面を外にして、上辺と下辺をセロ・テープでつなぎます。そして左下の図のようにたたみこんで、頂点1・2・3を一つにまとめて吊り下げると・・・。右下の三連カレンダーの完成デース。現在は1月ですから2005年1月が真中、2004年12月が上、2005年2月が下に来ていますね。ここで、右上と左下の図をもう一度見てください。2月になったら、このたたみ方を左回しに一枚ずつずらします。そうすると1月が上、2月が真中、3月が下になります。こうして毎月一枚ずつ左回しにずらしてゆけば、12月に

は来年1月のカレンダーが下に現れるという仕掛け。ミソは36枚が14枚と半分以下になるところ。コレゾ省資源、地球に優しい。大げさカナ。フトコロにも優しい。まあ、大方のヒトの感想は、「そんな必要があるのかネ？」というところでしょうが大ヒマジンはこの通りロクなこと考えていないんです。アハハ。

しかし、自分ではナカナカいいじゃないかと悦にっています。写真では小さい字は読み取れませんが固定国民祝日、移動国民祝日、各州ごとの祝日もちゃんと色分けして入っています。残念ながら肝心のカァディスのカルナバルの日取りは間違えて入れてしまいました。種本にした、日本語新聞に出ていた年間カレンダーが間違えていたのを鵜呑みにしてしまった結果です。

この日本語新聞はマドリードで月一回発行されているもので、今年から定期購読をする事にしたんです。私達のオソマツなスペイン語ではテレビ・ニュースを見ているもチンプンカンプンの事が多いんですが、後からこの新聞を読んで、アア、あの時のニュースはこのことを言っていたんだな、と世の中からは大分ずれて真相を知るという事になります。この情報過多の時代に私達ほど少ない情報のなかで生きているのはヘイの向こうの人達ぐらいではないでしょうか。それでも特に不都合はないと思っています。「多く」の情報の「殆ど」は日常生活におおきな影響はないものと信じています。ネットで見ることができる日本の新聞もゴクたまにしか見ません。

その少ない情報源のこの新聞、貴重な情報源ではありますが、時々明らかな誤りがあるのが気になります。まあ、所詮新聞とは、情報とは、そういうものではあるのでしょうか・・・。情報が多ければ多いほど、受け止めるほうがよほど心しないといけないのでしょね。

この三連カレンダーはRのお遊びですが、このテのことを考えるのは大好きです。ずっと以前、そう、もう30年位にもなるでしょうか。Rが深場釣りに熱中していた頃のことです。釣りをする方はご存知でしょうが、現在では釣り糸に色分けがしてあって、今、自分が何メートル糸を出しているかが一目でわかるようになっているのが当たり前です。でも30年前にはそんな商品はありませんでした。最近のハイテク釣り道具はマイコン搭載で至れり尽せりの情報を釣り人に提供してくれます。糸がどのくらい出ているかもその一つ。30年前には勿論そんなものもありません。

そこでどうしていたか？ Rはマジック・インキで糸に色をつけていました。10メートルを隔てて、板に釘を何本も打ちつけたものを固定して、その釘に次々と釣り糸を引っ掛けて張っておいて、マーカーで10メートル毎に色分けし、さらに黒で1メートル毎に小さい印、5メートル毎に大きい印をつけたのです。これは絶大な威力を發揮しました。糸が全体でどのくらい出ているか、即ち、どの位の深さで釣っているか、又は「底を切る」とか「タチをとる」といいますが、餌の位置を海底から何メートルぐらい上にするかが一目瞭然。オモリが海底についたら糸のタルミを取ってから自分の望む分だけ例えば2メートルならキッチリ2メートル巻き取れば良いんです。

これは釣りの結果に大いに影響あったと自賛しています。

或る時、或る船宿の船頭がRの使っていた釣り糸に眼をつけました。「オイ、お客さんヨー、オメーその糸どこで買ったんだヨー」本当に船頭らしい船頭、都会からの釣り客にスレていない、素朴な船頭はこんな言葉遣いです。お客だって「オメー」です。乱暴なのではなく親愛の情がこもった呼びかけなんですね。最近の、首都圏に近い釣り場ではもうこんな言葉遣いをする船頭は少なくなってしまったでしょう。その頃でもそう多くはなかったと思います。買ったんじゃないよ、作ったんだ。「ヘー作ったんカ、ドレ見シテミロ」そして「ウーン、オメ、ウメェー事考えたもんだよナー」とオホメの言葉を頂きました。

それから数年、気が付くと誰も彼もが色付けの釣り糸を使うようになっていました。

大手メーカーはどこでも色付けした釣り糸をいっせいに売り出したんです。

しまったナー、あの時、実用新案を申請しとけばよかった、と思っても後の祭り。当時、糸に色付けするという発想は誰かが同時にしていたにしても、自分で糸に色付けして使っていた奴はいないと確信しています。それにしても惜しいことしたナー。アレでちょっぴりオカネモチになれたかも知れない。少なくとも釣り舟ぐらいは買えたカモ……。でも、本当はこのアイデアの元は帆船時代の船乗りの先達のものなんです。手用測鉛といって、細いロープの先に鉛のオモリを付け、ロープには色リボンの目印をつけて海の深さを測った道具です。単純明快、先人の知恵は素晴らしい。

こんな三連カレンダー、商品化されないかな？ されないだろーなー。三ヶ月を一目で見れるのはいいにしても、イチイチたみなおすの面倒だもんなー。それにこんな

たたみ方しなくても14枚のうち3枚だけをつるして次の月になったら上1枚を外して下へ1枚足せば同じこと。だからこれはアイデア倒れ。ただのお遊び。***

「湘南名物・江の島タコせんべい」の巻

藤沢市民の読者のかたは「江の島タコせんべい」を食べた経験はなくても名前だけは知っておいでだと思います。藤沢ではよく見かける馴染みのある名前です。

私達は「タコせん」の段ボール箱には大いにお世話になりました。スペインへ来る事が本決まりになったとき、住んでいた家の近くのスーパーに「タコせん」の出店がありました。そこにはいつも形の揃った空の段ボール箱が大量においてあったので、その店ではずいぶんたくさんの空き箱を貰いました。

中身はせんべいで、壊れやすい商品ですから外箱はシッカリした丈夫な箱で海外へ物を発送するにはもってこいでした。サイズも大概のものは入るし、本などを適当に折り込んでも重くなりすぎることなく好都合でした。初めはイギリスに行ったnに色々送るのに使い始めて、そのサイズと丈夫さがすっかり気に入りました。足掛け三年のあいだにn宛に何個発送したか、多分20個では収まらない数でしょう。

その後、私達自身の移住が決まり、まず、それまで住んでいた家を処分して同じ藤沢の仮住まいへ、そして半年後には仮の住まいからベナルマデナへ、さらに二年後にはベナルマデナからカアディスへ、この三年間で三回の引っ越しをしたんですが、その都度お世話になったのはこのタコせん箱。

スペインに発送したもので約20個、イギリスで就職したnにもさらに数個、その他親戚や友人に預かってもらっている合計10数個も殆どがタコせん箱に収まっています。一体トータルで何箱貰った事になるんでしょう。ざっと指を折ってみても、5~60個は軽く超してしまいます。

何年にもわたってのことですから、お店のヒトも次々替わるので不思議にも思わなかったのですが、貰うほうも貰うほう、クレるほうもよくクレたもんです。中には私達の顔を覚えていてくれて、ああ、とっておきましたよ、とってくれたオバサンもいました。申し訳ないことにこの間ついぞ「タコせん」そのものを買うことはしま

せんでした。今から考えると、たとえ義理にでも何箱か「実入り」のものを買うべきだった、申し訳ないことをしたと思います。何しろ当時のRにとっては「せんべい」はナイモノに等しい存在で、買って食べようなどとは夢にも思わなかったのです。その丈夫なタコせん箱も、サスガに海外発送を含め三度の引っ越しにやや疲れが出てきました。カァデイスの部屋に引っ越して身の回りの整理も終わった時点で、ヘタリが来たタコせん箱はトウトウ処分する事にしました。私達の引っ越しも多分これまで。次にここを引き払うときは、「引っ越し」ではなく「撤退」か、どちらかの「旅立ち」になる可能性が強い。タコせん箱の出番も多分もうないでしょう。どうもゴクローさんというわけ。



この通りキッチリたたんで、ストラップをかけて・・・。本当にご苦労様。スペインの資源ごみ回収システムはまだあまりきちんとは実行されていないようですが、一応、紙やカートンは別口になっています。回収員はこれを見てこれが遥々日本から海を渡ってきたことに気が付くのでしょうか？この箱の殆どはシー・メールで送ったので文字通り海を渡ったんです。



ところで、今度nが遊びにきたとき、その「江の島タコせんべい」を持ってきてくれました。このHPの読者のお一人でもある、nの親しい友達が、前の引っ越しの話で私達がまだ「タコせん」を食べた事ナイ、というのを憶えていてくれて、わざわざnの所へ送って私達にもと言付けてくれたのです。

イヤー、感激。久し振りの日本の味でした。トリゴのセルベサにも、白にも、赤にだって馴染む絶好のオツマミです。原材料名に澱粉・たこ・生いか、とあって三番目にイカが入っているのがチョット気になるけれど、正直に表示してあるのも好感、何よりオツマミとしてのナジミのよさに全面脱帽。イカ・タコは親戚でもあるしネ。

E子さん、ホントにどうもありがとう。スペイン旅行の時はアゴ付きの無料ペンションの部屋を空けて待ってますからネー。そして、「タコせん」さん、この写真を無料広告と思って今までの箱代と棒引きにしてくださいね。きっと注文増えますよ。***

「カァデイス・バス・ツアー」の巻

一月半ばのある日カァデイス市内の観光バスに乗ってみました。カァデイスは初めてのnも一緒です。知らない町をとりあえずざっと見渡すのには乗合市内観光バスに乗るのが一番手っ取り早い方法の一つですね。

カァデイス市内観光は二つの会社があって、一つは赤いバス、もう一つは黄色と緑のツー・トーンです。どちらの会社も車体に欧州各国の国旗が画いてあって嬉しい事になぜか日本の国旗も欧州の国以外ではただ一国だけ入っています。

そして夫々の国旗には夫々の国語が付記してあります。例えばイギリス国旗の下にはENGLISH、日本国旗の下には日本語という具合。

これは、その言語での案内テープが有りますよということですね。と、そう思い込んでいました。だってどちらのバスも同じような画き方で車体の前面や左右に国旗を賑やかに飾ってあるのです。

いつか、これに乗ってヤロ、と思っていました。ドッチのバスがいいかな？ どうやら周遊コースも似たようなものらしい、私達の散歩コースでどちらのバスにも似たような頻度でよく出会います。いずれにしても旧市街は外周コースしかバスは走れませんが、そこしかバスが走れる道幅がないのです。

街のあちこちに両方のバスの看板がでていて、両方とも、切符は終日通用、乗るのも下りるのも好きな時に好きなところで、と書いてあります。

そして両方とも私達のピソからゴク近い四つ星ホテルの前でも止まるし、ざっと見たところ車体はツー・トーンの方がきれいです。じゃあ、乗るときはそっちにしよう。

結果的にこの判断は大間違い、研究不足でした。

四つ星ホテル(オテル・プラヤ・ビクトリア)そばにツー・トーン・バスの看板が出ているバルがありました、そこで切符を買ったまでは良かったんですが案内書がないんです。それでも、その店の前で乗れば問題はなかったんですが、nがバスに乗る前にヴォーダフォンの店に携帯用テレカを買いに行きたいと言うので、それなら確かこのすぐ先にあった筈、と歩き始めました。

まあ途中でバスが来ちゃったら手を挙げれば乗せてくれるだろう、とたかをくくって

いました。スペイン・オバサンが良くやっているテです。ところがいくら歩いても、あった筈のヴォーダフォンが見当りません。おかしい、こんな筈じゃなかったのに。

この種の事では絶対の自信があるRもこれには参りました。

結局そのまま歩いて旧市街への入口プエルタス・デ・ティエラまで来てしまったのです。その間バスも来ませんでした。Rハナハダ自信喪失。

あとで帰り道で見たら、何の事はない切符を買った店からほんの5～6軒先にちゃんとヴォーダフォンはあった。その鼻先を通ったのに三人共気づかずに通り過ぎてしまったんです。そのビルは工事中で店の表に面したウインドウは、携帯電話などの商品もとっばらってゴク地味ヘンになってたんですね。買ったばかりの切符に書いてある

ことに気をとられていたのも一因。とにかく、これがケチのつき始め。

プエルタス・デ・ティエラについてとき丁度バスも来てこれはタイミング上々。ところが、バスに乗って乗務員のセニョリータに案内書もらって、日本語の説明あるんですね？ と念を押すと、「ニホンゴ？ いいえありません」と平然。

だって、車体書いてあるじゃないの、といってもキョトンとしています。そして、さらに悪いことに「このバスは午後2時までで終了です」エーッ、もう1時過ぎじゃないの、ジョーダンきついで、と思いましたが「今は冬季スケジュールです」だと。

まあ、しょうがない英語の説明聞くしかないネ。それに自由に下りたり乗ったりも出来ないわけ。一旦下りたらもう次は来ないんだから。

冬場はどこでもすいている代わり、こういう事は良く有ります。そりゃ考えてみれば殆ど客の来ない期間には商売に熱が入らないのも無理はないですけどねー。それならそうと、キチンと表示してくれなくちゃ。そういう点がこの国では極めて不足です。

バスが旧市街に入ると路面は殆ど敷石ですから自分の乗っているバスだけでなく行き交う全ての車のタイヤの音がカナリうるさい、これはまだ家探しの目標を旧市街に置いていたとき、一番気になっていたことでした。

私達はバスの二階部分のオープン席に座っていましたから周囲の雑音はますます影響が大きいです。私達と同年配以上の方には分かっていただけだと思いますが、雑音の中ではっきり目的の言葉を聞き取る事が年々難しくなっています。

この時の雑音に閉口したのは私達ばかりでなく、英語は聞きなれている筈のnもあま

り良く聞き取れなかったようです。ヘッドセットの不調もあり、nには私達二人の大声の会話も周囲の雑音に輪をかけたのでしょう。耳が遠くなると声は大きく・・・。



これが私達の乗ったツー・トーン。ホラ日本の国旗があるでしょう？ でも、良く見るとその下に書いてある筈の「日本語」がありません。これは明らかにRの早とちり日本語とかいてあるのは赤いバスのほうでした。それにコッチは国旗の数も西・伊・英・独・仏・葡・日の七つ。赤いバスのほうは葡がなくて、替わりに瑞と露が入って

八カ国。

普段、観察眼は並以上と自負していたRもこれには降参。それにしてもなんだって日本の国旗が入ってるんだヨ。日本からの観光客が単独でこんなバスに乗ることは殆どないだろうに。オトシの6月以来、この街で明らかに日本人と知れる人を見たのは

まだ二回しか経験してません。

セビージャでは日本人団体客はゾロゾロしてますけどね。でもみんな貸切りバスでソ

ックリ移動です。日本からのツアーでカアディスが含まれるものは恐らくないでしょう。カアディスに日本人がいるとしたらマズ個人旅行で、ゴク少数のはずです。

日本国旗なんかつけても、乗る人が殆ど来ないんじゃないだろうーに。と思いましたが、どうやらこの会社二つともスペインの会社ではなくて欧州全域をカバーする大きい会社らしい。ダカラ車体の塗り方は各国各都市どこでも同じ、町の名前を替えるだけなんですね。日本人個人旅行者の多いところではこの国旗も威力を発揮するわけ。しかも車体塗装は「全部同じ」のほうが安上がり。それなら、ついでに日本語案内も、と思いますがモトデがかかることは実入りが期待できる所だけ。



私達が乗ったのは右側の赤矢印プエルタス・デ・ティエラ。それからカマキリの頭、旧市街外周を青線にそって時計回りにグルッと一回り、緑の矢印、例の市庁舎前の広場、プラサ・デ・サン・ファン・デ・ディオスで下車。

私達にとっては見慣れた街の外周を殆ど説明ナシで約30分でさっと一回りのつまらんツアー。新しい発見はナシ。一つだけ許せる事はオープン・エアーの二階バスで冬

の暖かい日差しの中をいつもとは違う視点の高さで街を見れたこと。初めてこの街を見たnには旧市街の全貌を把握する意味で乗った価値があったと思います。



プエルタス・デ・ティエラをを行くツアー・バス上のN&n。この通り借切り状態。



コッチは赤バス。カメラを向けたら笑顔で手を挙げたノリのいいオバサン達。

赤バスの会社は Cádiz Tour、ツー・トーンは Tour por Cádiz とヤヤこしい。
そして、このバスには西・英・仏・独・伊・瑞・日・露の八ヶ国の国旗と夫々の国語
を書いてあります。それとヘッドセットの絵！！
そうそう、その日、私達が乗ったツー・トーンが店じまいをした後もこの赤バスはまだ、走っていました。ツー・トーンは一人8ユーロ、赤バスは9ユーロ。1ユーロ高い事などぶっ飛んでしまう大サービス、というか、大マトモな商売で、二重丸。
近いうちに今度はこの赤バスにのろうと思います。だけど、ホントに日本語のテープが流れるか？ そが大いなる疑問。看板に偽りナシかどうか？？***

大寒波襲来：

冒頭に2～3日前から寒波だとお伝えしましたが、今日（木曜日）の昼のニュースではメリージャ(Melilla)でも雪が降ったと伝えていました。メリージャとはアフリカ北海岸モロッコ国内にあるスペインの飛び地です。その丁度対面にあるスペイン南岸即ちコスタ・デル・ソルの保養地の一つであるアルメリーア(Almería)でも雪、バレンシア(Valencia)の東、地中海のバレアレス諸島も雪、どこもここも雪、雪、雪。

どこの古老も皆一様に50数年ぶりみたいなことを話していました。

暖かい筈のカディスでもサスガに今朝は最低気温が10度をきったようです。テレビ局によって少し狂いが有りますが8度か9度だったらしい。

こうなると大理石の床は寒々としていますが、全室二重窓が効いて、小さなオイル・ラジエーター一つで凌げます。午後になれば部屋一杯に陽が差し込んで暖かく、その頃には浜歩きも快適です。

日本も大寒を過ぎて冬らしい冬になったようですね、皆さん風邪など召さぬようご自愛下さい。受験生のみなさんもここまで来たらもう勉強より健康管理に重点を移して最良の体調で試験にのぞめるよう祈っています。では。 R & N ***
